



12. つくる責任、つかう責任

受水槽を木槽に更新

志木高等学校の受水槽を木槽に更新しました。木製の受水槽は、耐久性・耐震性・抗菌性に優れているだけでなく、製造過程でもCO₂排出量が非常に少ないことで地球温暖化防止に伴う温室効果ガスの削減に結びつき、環境性にも優れています。また、木槽材は基本的に自然木と付属品の鋼材に大きく2種類に分類することができ、経過年数により解体更新した木部はウッドチップなどに再利用したり、鋼材なども再形成して新たな製品として利用することもできるなど、各部材のリサイクル性も高い特徴があります。

今回更新した受水槽は、キャンパスのある埼玉県産の杉を使用することで、「地産地消」にも貢献しています。



「サステイナブルキャンパスプログラム」始動

慶應義塾湘南藤沢キャンパス(SFC)は、SFCの全ての部門(総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、湘南藤沢中部・高等部)が協働してサステイナブルなキャンパスの実現を目指す、「サステイナブルキャンパスプログラム」を始動しました。プログラムでは、それぞれ「資源循環」、「自然環境」、「カーボンニュートラル」、「健康と地域」、「食と農」をテーマとする5つのプロジェクトと、湘南藤沢高等部で取り組まれてきた環境プロジェクトが、相互に連携しながら進められています。

2023年度に実施した主な活動例

- 古紙回収の開始、学内カフェでのリターナブル容器の導入
- キャンパス内の生物相モニタリングと侵略的外来種の除去
- 営農型太陽光発電のSFC内外への導入可能性の検討
- 株式会社スタジオスポビー(<https://spoby.jp/index.html>)が開発したエコライフアプリ「SPOBY」を用いた行動変容実験
- 遠藤・御所見地区における米と野菜の生産
- 活動をまとめた冊子の作成

「慶應義塾中等部×KeMCo 物質循環ワークショップ」開催

慶應義塾中等部と慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo) は、2022年度から協同して、SDGs13番目のゴール「気候変動に具体的な対策を」を主題としたプロジェクトを展開しています。2023年度はアートとテクノロジーを切り口に様々なワークショップを実施しました。2023年9月12日には、アート・プロジェクトとして「土づくり」を実践されているメディア・アーティストの三原聡一郎さんを講師として迎え、「アーティストのまなざしを通じて生態系や循環について考えるプログラム」を実施しました。「身の回りのもので筆記具をつくる」をテーマに、廃棄物を再利用して、インクや筆の製作を行い、それらを使用して書道を体験しました。制作した作品は、KeMCoで開催された、新春展2024「龍の翔る空き地」展(2024年1月10日～2月9日)にて展示されました。

2023年度に実施したその他のワークショップ

<https://studio.kemco.keio.ac.jp/chutobu>

- 「都市の生き物図鑑」ものづくりワークショップ
- 航空業界における気候変動への取り組みを知る、プログラミングワークショップ
- SDGs×Museum:ミュージアム体験を通じた行動宣言・動画制作ワークショップ



小泉信三記念講座*「カーボンニュートラル世代のサステナブル経営—地域と大学の未来を見据えて—」開催

2023年11月9日、2023年度の小泉信三記念講座として、政策・メディア研究科 吉高まり非常勤講師(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社フェロー(サステナビリティ)、東京大学教養学部客員教授を兼任)による講演「カーボンニュートラル世代のサステナブル経営—地域と大学の未来を見据えて—」が開催されました。

地球が抱えている気候変動や生物多様性喪失に対応する世界と日本の動向を踏まえた、高まる金融の役割、ESG投資やサステナブルファイナンスの基礎となる企業の非財務情報開示など、企業に求められるサステナブル経営のあり方について説明がありました。

また、2023年に閣議決定された「グリーントランスフォーメーション(GX)実現に向けた基本方針」を巡る地域での事例も紹介しつつ、GXにおいて大学に期待される役割と、カーボンニュートラルを実現するサステナブルな社会とはどのようなものかの提言もありました。

※故小泉信三博士の人と学問を記念して設けられた小泉基金により、全学的な総合講座として1968年より年に数回実施している公開講座。原則として予約は不要、聴講料無料で学外の方も参加可能です。



塾生会議プロジェクト始動

「2022塾生会議」の提言を受けて7つのプロジェクトが採択され、2023年度に具体的な取り組みを実施しました。

• ウォーターサーバープロジェクト

「2030年までに、ウォーターサーバーをキャンパス内の全ての施設に設置する」という提言を受けて、2023年度より、各キャンパスにウォーターサーバーを設置あるいは試行設置し、地球環境との"協生"へ向けた動きをスタートさせました。2023年10月には、「日常生活において、「マイボトル」を携帯し、授業の合間にウォーターサーバーで給水する行動を習慣化しよう!」という目標を達成するために、塾生会議のメンバーや有志の塾生とともに「スタンプラリー」を企画・実施しました。企画の一つとして行われたマイボトルの配布には、多くの塾生が列をつくりました。



• ごみ箱改革プロジェクト

塾内のリサイクル率の改善を目指すプロジェクトです。曖昧な分別表示、利用しづらく不統一なごみ箱のデザイン、分別に対する意識の低さなどに着目したうえで、利用者である塾生や教職員向けにアンケートを実施し、改善に向けた要望などを調べました。それらの結果を踏まえ、2024年3月、日吉キャンパスに古紙回収ボックスとごみ分別を啓発するための看板を設置しました。今後は他のキャンパスでの設置を目指しています。



国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 開催のシンポジウムに塾生会議のメンバーが登壇

2024年3月29日、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)」(<https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>)の参加大学とサステナビリティの取り組みについて議論を行うシンポジウムが、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) により開催され、SDGsの達成に向けた学生主導の取り組みに関するパネルディスカッションに、塾生会議のメンバーが登壇しました。塾生会議の概要について紹介した後、「2023塾生会議」が行った最終提言のうち、①地方出身学生支援のためのイベント「よる食堂」の開催、②教科書の電子化・サブスクリプションの導入について発表しました。

企業から参加したアドバイザーからの助言や、参加者からの質疑を受け、活発な議論が交わされました。

